





有無カ日集ク之云

東都



合飲の本結まろく挽きむ若の秋	暮太
つゆまろのなまをせく是松 <small>ノ</small> 藤	人丸
春の日や云井乃古寺鐘 <small>ハ</small> あれと	連夫
涼 <small>ハ</small> さや六月縮 <small>ク</small> 水乃音	魚汶
星 <small>ハ</small> くつふ雨 <small>ハ</small> くお <small>ハ</small> り夏 <small>ノ</small> 月	山幸
宿 <small>ハ</small> ろく <small>ハ</small> 悔 <small>ハ</small> く清水 <small>ノ</small> 海 <small>ハ</small> 水	文来

世分し〜人さすくのかし介
阿人
友か〜あ〜いおきうう夕桜
吐月
炭竈やまも孩〜し峯の松
全

時多あさ此片とやふ片し
存義

勤うさぬ浪乃おり〜さ〜あの月
賞明

簞新乃ま川風ち〜たう
旨原

紙燭〜時雨の色をみるお水
珪山

似〜顔乃賞人も〜る真茶広
錦川

花守乃葉〜ちかきる命うふ
樓川

辛〜う〜思お日も〜ん角力とら
湖十

牡丹花〜お〜水〜菊の手拙水
秋色

岩〜あ〜る中川のあ〜虫の色
石腸

入あいのを〜〜〜
左巢

素丸

くら曇東風のびる中つり
馬明
夕の景此明きくもあつる日影小
昨馬
離れ家乃垣や椿やきり桃
百明

病中吟

啼止をお着(も)を掃よまじくん
古 松籟
これをもよと花守を余きり
卷阿
風やちとて淋ききみ糸の松
秋風
雪折や陸とこふ水く一袋
門瑟

魂系詞

芝蘭の友蜜院の何某松谷けきかてなるよは
ふまふよう東都の二夜庵よまじくハまはらき乃
魂系以て其終ととり終ひしハその魂ある
心とま衣ハ日と前やけ五とせむかきき御
庵と終ひて朝暮離れさるや衣其際ハ他の
因るあましくかゝる時よも有合さん七回ま
折つるまよたもあましく色はるもあまは御も
おりのく侍も親しき人くに何と云やんか

胸痛く泪のこえをきてちかかき牛の杖も沈
 斑くそこ侍りきあいつれの時うたをきさ乃
 ころころあつむいづらの目う思のおこころは
 あつむ君よと誓つるがせうは老くまを
 たつさ縁もわひくころのこ置侍りく新雪も
 捨くけきまをそ定なまこ魂あつれ魂ころ茶
 ろのまのこまの命取ある中ころ老く強うあ
 母まこれなけきははかれば恨く借やめを
 夏よりけそ思いやまこ魂あつれまよあ人侍り

君生まふ多病ころころ山をさるく頼もつれも
 ちよよ思ひ侍りさひまの宿の床と訪く花さの
 句まを水ふる物終きころ茶の花やと枝ハ
 まあつりつりつり一足そこの曉の吟をそ色蓮葉の
 枝中のる友ふひころかとありく具付の今よたは
 其う猿ころそ其夫人むかころこつりまんころふり
 ちころふぞのあつれ侍りく雪水まののつら
 ちあふ處とあつさあつ縁の魂あつころころ色

鳩述

盆會

信岩村田

毫棚や甲おふさのまら造了る花

松谷

移くく先く我燈つるまんりけ

雞山

煉乃月後賀ハ都乃石よさひし

畔古

轉合書れ一字 摺 左

柯則

音田石と菓子よ厨む冬陸

周布

音信くゆく振賣乃 雁

思可

名録

行るく田の空よ啼く雲雀うる

畔古

渡場乃柳月あかり彼岸小

周布

物音乃角へ利くうかまつら

梅富

南瓜と垣のおりくや秋のせ

柯則

喰足くち非るの顔や春の句

思可

幼きん膳小音ありり亭売者

雞山

上毛吉井

むくきくも雨とよききく相音小

松谷

心裏吹くや川ふる水の秋こそ

其蝶

旅の月麻木屋音ふよ宮前りて

如醉

千栄あみ花ふ嫁のかわりよみ

園李女

世よはくくさきハはあひよめりてく

午尾

あこの雲れ早きととくめあ

桃虫

名録

四ツまへ乃日向とあややそ乃愧

如醉

落し水飛く虫乃かみ水そり

桃虫

春のりやや蟻の砂りり葉れ中

其石

夕暮のさむくき中た結り卯

其子

比丘寺や梨の花ちる虫乃音

園李

虫路やみつふおの本のまれあ音

午尾

脊戸道や種まきうると此魚の音

其蝶

雨の白りくみ芥子れはらさくも

吉井

松且

藤垣のく人のちろくや小水衝

可夕

海棠や塙の物見えぬ半さるれ

平井

保水

おとらき京の心もや新たぐも

素嶋

つる登木くものさしをく水う井

井蘆

推の實や小きのまはらぬ東乃音

以珪

空をくソリや人をも度ふややり

本勤堂

文冠

七羊や野守よ世貴あ物もあり

下仁田

魚淵

秋風

上毛磁澤

秋風や斗もねのワのくおれ

松谷

はくろはくせれ夜まる月新

未可

古序へ送ふあももい又とく

菊浦

山口すふさふと入り

楚竹

はんのりくと梅白くあふふ系

蘭丸

しなよあやはるりのかあう色

菖水

名録

ちあゝとや馬の尾づく杜若有
 美斗や風小由しくく水乃と
 常く茅葎あぐ垣根うや
 乃月之蝸乃啼く不乃と
 春風を楯の粘糸乃さるかさ
 おう留れ風くさるくふ春乃
 夕之けれ空くさあけう梅
 兼
 小可

鳴子

上毛藤岡

山たふ小室とたうて鳴子川
 あ音にらそよ月乃ゆあう水
 菊好ハきくくにくめあぐ以の也
 由さかたふる代と長あす乃た
 中あさるる物も掛る標上小
 指のかくみとくうや
 松谷
 米直
 栄宿
 民止
 代賀
 梅七

名録

晒白のりのそき妹のりのそき川
 巢のりのそきとんくのりのそき子規
 くれのりのそきうのりのそきのりのそき
 山のりのそき月の影のりのそきのりのそき
 凡のりのそきのりのそきのりのそき
 古のりのそきのりのそきのりのそき
 深山のりのそきのりのそきのりのそき
 朱直

芙蓉

甲府

松谷

おとありとわらわぬ花の美のりのそき
 立のりのそきのりのそきのりのそき
 碧のりのそきのりのそきのりのそき
 糸のりのそきのりのそきのりのそき
 糸のりのそきのりのそきのりのそき
 日本のりのそきのりのそきのりのそき
 一咲
 湓水
 泰路
 瑞木
 亀堂

名録

伎の世とわづらふ侍の栲栳一嘆
 素芭瑞木抱てあまうとく川時瑞木
 あらうひや一輪はの山龜堂
 ちよあまき女使やとく川時恭路

長江天際流

空と伸く帆とくくつるや柯雲
 名月之る地鏡素光よハ争ふはん
 落粟やとく川時鳩丸谷のねと
 ねとひ子と麻せつと子や小叔調唯

塩漬之 煙よとたふ今期潤水

武深谷

ちる花小おりの切たる酒乃醉素山
 雨と水と陽とり申る羅門 糞 船
 春雨や宿と考豆小たる汁木人
 かゝ風や獨子と居る紙衣獨何
 窗乃灯と斗きとくと秋蝶阿

虫

常州鉾田

招谷

町中や、菟小唄く虫は色まじ

氣入たるくわやしく入りこり月

清くふ、中ふらのをれ花を以て

京飲くくも酔乃怖く

葉さくく花小唄たる木下伝

綿めきき時の蝶入り身わらき

素雅

景山

霍之

松下

弘仙

名録

名月之あをさきゆり鶴の色

髪結と商人乃て来る潮干ふ

谷底をたよめくまきや喜乃法

花守乃まはそえても次蝶乃

けく由く春あさ長く夏の花

花守り木樵てまきやゆり咲

景山

霍之

弘仙

燕舎

里風

素雅

叢虫

信御原

松谷

叢虫此啼や頭陀干以栄乃庵
 久う水糸月ま悉そつくつく
 稻積し初く漁翁の掉きて
 河浜柿むしく雀もや
 きあわくやぼのか小窓の蔭裏
 山吹ころも着く人も誰
 露白
 朱顔
 其霍
 里楳
 壽好

名録

啼たりや吹雪の多れ乃芭
 夏川や小魚くささたの草の泣
 いりり柄桶のまけくやかんこも
 耳たゆく駒も眠るや春の雨
 稀くゆく雪ふもあやまほじ
 解さよの秋も涼そくも月乃月
 親 意風
 朱顔
 其霍
 壽好
 菊文
 里楳
 露白

あしとや夕遊みの江入る井出川 箒雨

不二のめり曙白上今井 友加

陽をさかつかも連る魚た戸倉 古懐

南てく掃木悵く鳴く故夫代 路因

蛇の色眠く去年時此白躑躅吉田 蘭望

梅梅や一輪花乃ちくくよ六代女

露の糸れしりくさハ雨小倒元紅

剪といひ井棠咲ぬ家乃ち兩柳

春

信松本

松谷

春を春そ嵐の道ふよきた輔良

舞うくははくあ月入あ兩柳

祝子花つて秋をあ也山

糸子つてりの酒之酔春裁

二三斗くもくあ雪乃奥有明

果小かたきさ乃有明

名録

膏乃乃乃々 螢花かお水乃々々 也山

つとほら小植 一柳乃乃乃々水乃 雨州

氷乃乃乃々 凡乃々々乃乃乃乃乃 春哉

日ハ西乃乃乃 沈む山道乃乃乃乃乃 友之

垣乃乃乃々 瓢乃乃乃乃乃乃乃乃乃 虎集

月曉乃乃乃 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 有明

凍雨乃乃乃 松木山乃乃乃乃乃乃乃乃乃 木周

實の乃乃乃乃 梢乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 酏州

海人乃乃乃 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 吉人 之盛

子規啼乃乃乃 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 白羽

桐乃乃乃乃乃 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 輔良

乃乃乃乃乃 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 善光寺 守一

静乃乃乃乃 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 文兆

櫻乃乃乃乃乃 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 猿左

晩秋

東都

松谷

中ふもかき乃種りて秋の末
 百里をゆく一しりぬる月
 夕佳りの新酒の味もよかたて
 老とがくはく浦草入りうへ
 日當りもまきのある雨れもけい極
 時^{ウツ}くも^{ウツ}なきいよとくも啼く
 柏亭
 麻千
 草風
 石鼓
 菅兩

名録

名^{ウツ}くも^{ウツ}く月少も植ん千菊田
 弱きやそ野所一の影もくけ
 春の余波ならわれ花もちる夕川
 岨道やみ葦捲く清いま
 二日之日あけなるも笑かひ名^{ウツ}の秋
 びくはけふ之くも送る枇杷の系
 麻千
 石鼓
 菅兩
 草風
 柏亭
 喜悠

青柳そ風ふらふらうそ青此雨 菊明
栂の枝より猫はあきらく煤拵 魚藻

月とうの雨とうーそそつぐ性 全化

石斑炙りやちりくほ久櫓の陰 一和

見ふも^こ蛸きくくや谷乃さそと 甚化

有妙々名日集巻之四

時雨

甲州藤田

雀啼く袖のそふちりくく夕時雨 松谷

固かゝの條をく納豆ききる音 葛履

清をえく水あなほゆむ人かろく 孤月

皆くもれくんる此かゆくか 魚交

むかーあふ百の森の亭乃月此あそ 一箕

月とむかー入るまこれおもかけ 魯橋

名録

釋乃植もあつらふ、勤く月おふ

孤月

目く少水く梅さくおのほゆ

魚交

はく野路乃様たき、秋の音

一箕

露乃おやいづりく、月此色

魯橋

歩苔ともや、浮床か、水乃人々養

清人

山彦さ、鹿く川おま、此冬の月

葛履

冬本立

常州水戸

松谷

野馬乃、河あ、七さき、冬本立

追く、鹿家、はく、乃、ま、た、為

柳苔

高、揚、く、乃、名、ほ、乃、壺、長、く、さ、せ、く

萬鈴

ね、勺、乃、友、の、よ、れ、は、く、乃、り、の

松林

彼、岸、う、も、盆、お、も、月、と、か、ら、歌

青牛

秋、の、日、和、乃、か、く、乃、り、金、乃、さ、く、

麻石

名録

守りし水も柳ハかり〜更衣 青牛

風止〜音あり響乃〜一息あり 松林

名月や又君多〜おたる切〜 沾縁

羊耳の振〜たけ多〜五月雨 兔角

掌〜雨来あり〜これ日あり 麻石

更外〜法〜ぬき止めあり音 萬鈴

お乃〜も小意衣替ふ暖浦あり 柳苔

あけ〜け〜其町〜花乃菜 笠間 破明

き〜〜と目小照砂乃あり 蕪城

鴨〜〜煉油出采のそよき〜 讃岐 枕也

多〜〜鏡〜〜まむ書乃あり 阿波 潮嵐

物音衣壇屋〜〜多〜〜おお 下総 巴蓼

ふ〜〜乃露小〜〜お旭の卯 上総 砥柱

掌〜〜岨乃〜〜みられぬあり 如蘭

みき

越拍崎

松谷

みきや月動しくおもせり
清のけつふふあれ乃を遠くと
多のみにふりつともれとも茶子澄て
伊与乃たふりのまき水屋
藤の花もさちりかそのまを憂
さしりゆ蝶乃まはたふよりえん

伯止
以外
麗也
霞夕
潤之

名録

ろくくと意さくはをこりり
とつろくもちる雨乃花柚水
春の山木れ根まうに碎伏む
我くもあふちり日もあふん桜桐のま
的きや筑地えくつくり松
雨も水の軒く群さり花埃は
響翠やあいの境も踏あふく
泥よとあぬ是もたふいかきつた

叙
以外
花明
潤之
湖柳
琴枝
湖山
麗也
霞夕

山灰堂于以越乃日新や水仙花 伯止

雇人と叮嚀を

あつろをよ雪あふるをそ煤をい 梨一

越前丸岡

奥そこの志水ぬきをさや海乃音 哥川

三國

露をり川ちううに赤く秋休棠 康工

越中

餅賣乃擔挿小を冷やる花うらき 加與

富山

川尻之うろこ氷結乃とありふる 一音

雲水

何時り雪ハさうりに降小をうりハ 芋月

霜

信松本

松谷

山里や葉干を屋根く郎の妻

しよしの幼もこし雪乃か什 素因

太神く幣乃市勅使くあま 文屋

白浪からうあまぬるきたなな 樟柯

年少うー松生くけく者明子 暮遠

さ波よまを信道賀乃秋風 芳枝

名録

松小を入る橙々かまろく荒の色 暮遠
 白前花や笈代とよけふ山石の間 竹里
 凍雨や鷗乃まろくか休入おれ 樟柯
 静さや風吹ぬ日入るたのきつし 芳枝
 あく清よ深く休ねる牛ふりり 詔北
 河もろく人こそそ去るゆか冬乃月 文屋
 去り行くまろくや庭をよる小風騒ぐ 素因

鷓鴣

信麻績

弁乃通やお戸明きハみそささゆ 松谷
 柳志生ふ月表とく川志とて 鳥俄
 煙たけり清りし水と漕よきとく 梅五
 銀りもめんとうらひかふるまれ 子あ女
 か系在くし涅槃いとまむささよ 吐玉
 小山里乃ろくめ片ろりあ糸 麥里

名録

そればくふ野言ハ渡々枯中

吐玉

松風く更けやうあすの川

梅五

りかこりあさかりなきうね秋の花

とあ女

斗りくや雀啼りふあさるのせ

麦里

まろくや持栴乃朝小楯のくえ

鳥俄

栴さくやうあも小窓に十八人

小布施 杜風

く免折くふ衣さくふ白いふ

飯山 白亀

綱代

信上諏訪

松谷

着ふりのと吐為りくめ綱代も

月と志とくくく志れく河を

莫阿

四阿をくくあひ車志音終く

百道

恨くくく金人小窓あひく

素麦

栴折くくさけくくくく

竜子

まあまのりくくく楢系乃柄く

楚波

名録

勤くそのみちをたどりし秋の風 百道

さるるる埋まらぬ古の川 楚波

本陣川や西の敷啼くかんのこり 素麦

枯らぬやあさたのささ言小菅の春 竜子

冬枯るる水もさるる物をこき 暮阿

あさかすけと月りふるときに新ありし 木柯

雲水

寒

信上田塩尻

松谷

吹雪のしるしに次あるときをさす

縄を肩にけりてをりて戸ひと 眠郎

序堂より大原の尾に急を起す 梅詞

おさし薫る月をありて 湖北

仇わたりと戯れ持し出るる人 葦路

結草志守水家よりありて 英戸

名録

雪小を川二祖の公う水儂花

梅詞

八十二首

あけくふる一日吹く雪まあん

葦路

あ牛く四つをいりきうう

英戸

春のもえ埴敷かうなるそり水

湖北

冬木立森くくみきもたぬえー

眠郎

寒きまき雪の命乃ふもあり

雲水
雲雁

見出さぬく人小酔るさく

樽泉
柗儿

ふたうく物まあきく

吹上
橋志

雪やまうら花も咲くま前

熊谷
笑牛

休らうむま乃中かるはな

都島
拳一

削くく煙く眠る蚊やう

沼和田
沼古

雨暗く蠶た川日の洗衣

沼芦

斗原ふ一りく高し雪乃松

勅使河原
伏馬

山岩松のりやうく渡る柳

金久保
伯雨

稲乃花くふりまき世れ日並る

示来

歳尾

武州本庄

市人よふふともさやぐくはれ暮

松谷

雪うりおろり志はつねる 是

一馬

松原く雉免菊萱れ家ありく

頼尾

系図傳ふふ天 周る 釵

桂路

月よまふ雅き思る所ありはる

之佐

芙蓉れあふとく川ありある

李明

名録

歌る水やかこるむいハ怖くは

桂路

その山や志く川のかとれ古草鞋

頼尾

春草ふくく 獨活も神草に似ては

李明

誰をみくく山吹雨は菴うや

白水

雪うり 歳れあふきく 野藪は

其室

あふはは雪をく渚うり 鳴ちる

木五

陽をれた川はつる山田の柳

文脂

むしやうき節うり 更る夏の月

み佐

ゆふの空に性とまらぬ池の御水
日とくける地とまらぬ秋の花
岸とまらぬつゆとまらぬあま
長旅やまらぬおもしろさの色

木秀

卷耳

杜周

紫子

あはれくく月吹きをりあはれくく
一馬

有無の心日集巻之五

友人病中れ吟と唄人

あはれくに涙入るまらぬと

そとくひとらうりの仇甚

とととがき

茶のつ花やと枝にまらぬ子唄人
松

あはれめく水ふらひとくせの寒々
似鳩

弦けけ白木の琴乃線志をて
松堂

る葉製をまらぬ斗ヤの印く
舟媒

みづのくろく 鶺鴒啼 空の雨を付
とくあしぬふら 露乃あし露
二十六乃里ハ 暮るる 秋乃まを急
念仏つゝめ 家ぬまひとく 家
酒賣乃さけ 小川乃さけり 古刀
吹暮るる 家小乃かき かせ
きくくく 空走月 照乃新 凄く
白髪と 花小あさる 乃わりかき
ちきり 空 街 繁れく 暮あさる 也

河舟 倚流 孟川 紫英 眉年 露竹 花繡 知東 旭

夏くはあさる 乃くわい 乃くわい
小川崎 乃くわい 乃くわい 乃くわい
敵とあはむ 乃くわい 乃くわい 乃くわい
りよを 乃くわい 乃くわい 乃くわい
やあも 乃くわい 乃くわい 乃くわい
春雨 乃くわい 乃くわい 乃くわい
纏乃ささる 乃くわい 乃くわい 乃くわい
面瘦乃むし 乃くわい 乃くわい 乃くわい
糸乃ささる 乃くわい 乃くわい 乃くわい

堂 流 舟 媒 川 英 年 竹 繡

合歡乃木れ花散りかるとにうらむ
 市上人も心酔うらむいりよ
 在の舟とむらばる者れありまき
 こつちりもむ来乃のあり結
 あり眼れ笑くさゆふ雪の持
 あれたふまうらう丘乃の女新ふ
 げうくと雲乃はとふ椽のこ記
 節白のま月乃月志うらなうり
 棹なうらふ音のこまゆえ秋の中
 年 英 川 流 舟 媒 堂 旭 東

息柶の宮り連と侍つ
 うらうらと筩組むらうま修り
 蝶々もあつと猫と追ひまは
 ねまらうと斬むる苑のま乃人
 塚のまも水とをらうかのま
 竹 繡 東 知山 執筆

名録

軒乃日やたうらゆの氷解一置
 上仁午 眉年
 物務之新羊負一牛の教
 深幸

枇杷咲中水風さむき家の間 下道寺 河舟
たのめをうり月も残し 湖の里 湖洋

山茶花咲や歌はく家里のま 馬見 扇要
凍雨や降る歌詠乃少ふか 歌幸
く月かりと寝るく庭うり涼舟 五明
滝ちりき鍛冶く住居や秋乃風 冬扇
うりきハ岸の花うり朝の月 一瓢

山陰や栗乃花照る夕つく日 寒川
釣もふハ余無や橋の夕まきみ 桐宇
別もさもまきくて涼し初志棄 舞蝶
あちなほちまかかく空と調をうり 茶因
居垣しつ古塚そり花とこれ 素白
そ海うり多也さし日の照る日 朱一
四五中や野守り門乃植茄子 奇峯
木のむり家日不焦くか涼山蟬 菊睡
あつれさふ焼し消るり其乃虫 雨篁

朧おや 游りいさみ 海人々家 柴宿 南樓

朝日みちろく 巧婦多遠く 鳴音 飯島 柏隼

蒲公英の 籠りまふゆき 日如 保泉 梅苔

在のまふや 雨乃 垂れけ 屋 八平島 南山

祢宜々垣も 清一 夕けの 風車 本庄 飛泉

物遠く 雉子啼 谷へ 旅り 女 薙紅

ひく波や ちろく 解ろく 候 庇 菊後

京中や 夕の 系ふ 方れ 麦 木 長沼 知山

花しるもや 躑躅も ちろく 雨乃 存 樗同

月清し ね乃 蓮ろく 花 籠ろく だん 泊水

篠吹や 照射ろく 立 執 鹿の 影 才雅

戈多啼くや 樓の本 立 其 後 女 百和

窓明ろく 子規 啼ろく 月 照ろく 分 女 さん

鹿啼くや いとく 徒しき 雨乃 宥 女 志免

さくそ たふ 芥子 ちろく 頃の 光 女 翠車

秋吹くや 馬乃 皆がく 賤々 門 落霞

あさうきと雪向く見ゆる山の岫
 日の隈之野と焼くかこの為衣
 落の糸之柱啼つふ雨入たれ
 二三羽之雀を巾〜雪おん中
 猪垣〜似まなき栂入さうい
 よふほき柳小枝〜解やひ
 河原田やひ〜ま入る前
 ころよきか〜夜〜嵐や〜
 膝乃思とよく挿入り夕涼こ

古吐
 晚来
 楚弓
 富五郎
 山雨
 馬水
 北栞
 臨川
 角飛

女

礒山之ち〜もた〜夕以雪
 風烈〜霰た〜ふおる音
 吹さ〜月をむ〜おまひ

露竹
 紫英
 荅繡

木叶〜枯半〜とさるゆし
 罪少〜搗沙乃〜雪の原
 う〜店や雪入〜此納豆賣

倚流
 知東
 孟川

わいーをむむやーいうねる津敷
あつたきるく霜尖るふ日まの乳
松堂
舟媒

雪乃おろく誰宿ん休も孰大乃聲
おろく色とかさおくく雪の山
似鳩
半化坊

文とてりりり又と會し友とりりり仁とたき
少く円珠燈のちかおれ中た角ある文を
のちたて年一其文たる山をたてふたを
れいりりり詩ハ志とつり歌ハこととと
少の三十一あま五とてりりり又其の中
あむと舟橋井平の餘は少俗く世産
入つと舟あふりりりり月平雪の舟のり
あつたきるく霜尖るふ日まの乳
あつたきるく霜尖るふ日まの乳
あつたきるく霜尖るふ日まの乳
あつたきるく霜尖るふ日まの乳

農女うきさけくも又あつらせし
かきしう文年ふ七人松立少いあふ此
交信うしうしうあつらひのさういあふ
くおほくしうあつらひのさういあふ
ろあみもんさういお移ろいあふとつる
似地子追福のまゝとつるて懸珠とつる
哥を陀羅尼小此まゝとつる地も又を園
ながくはくまらやあふ小そのこままこ
好たるとりしも向とあつらひのさういあふ

ワらあんと遺州と取く農句と邪
同志つる夢て雨莫のそまを前集
二つ分の冊子とあつらひのさういあふ
法と執しと轉法輪のあつらひのさういあふ
新今の親ま天上げく母地^下のあつらひのさういあふ
あつらひのさういあふあつらひのさういあふ
あつらひのさういあふあつらひのさういあふ
あつらひのさういあふあつらひのさういあふ
あつらひのさういあふあつらひのさういあふ
あつらひのさういあふあつらひのさういあふ

子入はとまろし何なり抄有る僕等
才とやうなる人少僕とて其志あり小
けのそありをいひきせしとみと徳さしと
とち少降く綱のきとよまのきんハ世の口こく
且よりみと立るるにわくの事れを無入
鏡と物をもしんまの尾片おつて
の

安永四乙未冬

とくも下を古河東政

于時天保三歲

壬辰林鐘仕入



信員於靜乃村大夫保

高栄亭

廣右衛門主持之

